

20 神奈川県 横浜市 今井川いこいの水辺

水源	導水方法	導水箇所	水環境上の問題
地下水・湧水	新規管路 自然流下	河川・水路	親水性・景観



※地図中の破線枠は次ページの地図範囲



対象地域の概要

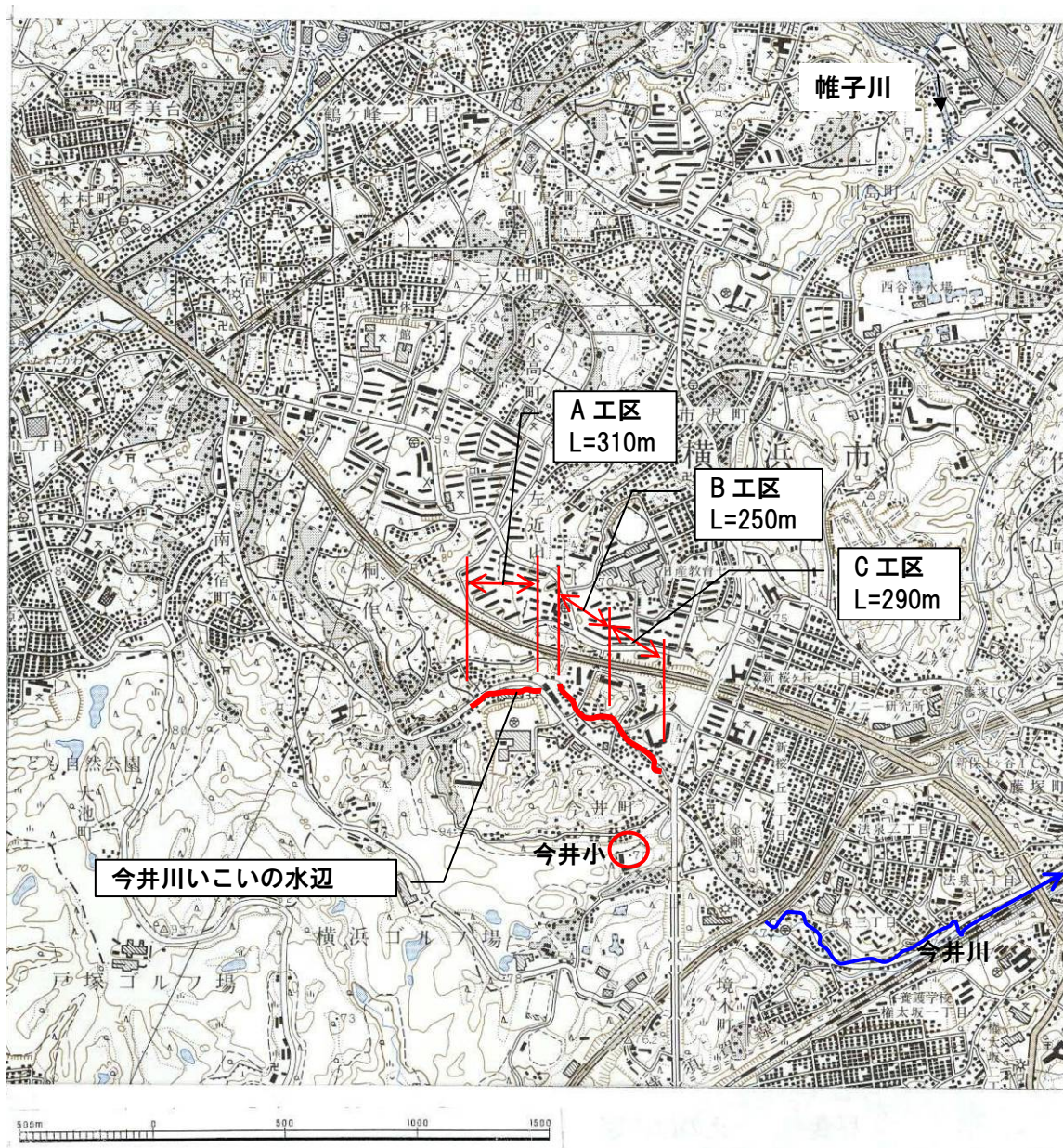
・地域の概要

横浜の地形の特徴的な谷戸を流れる水路だったため、水路兩岸に斜面地がある。斜面は開発され、民家が並行して立地する区間、工場・学校が隣接する区間に分けられます。

上流路線部には小面積ながら周辺に里山の景観を形成してきた在来の常緑高・低木、ツル性植物等さまざまな植物が生育しています。中流・下流路線部は両側に住宅が接近しており、せせらぎ緑道の整備後は、民家の裏に人の往来が生じるため、植栽等の目隠しにより居住者のプライバシーを守る必要がありました。

・水環境上の問題：水質悪化・悪臭 生態系悪影響 **親水性・景観**

今井川が流れていた 850m の区間は、今井雨水幹線として下水管（暗渠）が整備され、埋め戻され水の流れのなくなった跡地が有効利用されず（予算がつかず、年 2 回から 3 回の除草だけの管理を行っていた状態）残っていたため、行政に対して管理が十分でないと周辺住民から苦情が出ていました。



導水事業の概要

・目標

目標像は設定していませんが、整備方針は以下の通りです。

事業内容：整備対象区間（延長 880m）を三つ（A・B・C）の工区にわけ、ワークショップでの提案を受け、状況に合わせた整備を行った。

- ・ A工区：上流側 310mの区間（平成 14 年 3 月 15 日開通式）

○周辺に民家が少ない自然回復の区間とし、「生きものの生息環境の創出を中心としたエリア」

○連続した園路とせせらぎを中心に、自然池、ベンチ、鳥の巣箱、木製デッキ、橋、ブナ類の植樹、フットライトを配置している。

○修景に配慮した区間とし、「日常的な人の歩行、散策を中心に整備するエリア」

連続した園路とせせらぎを中心に花壇、ベンチ、四阿（あすまや）、土系舗装、ハマレンガの縁石、庭園灯を配置。

・水源

自然の湧水等

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">導水事業の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・導水方法 自然の湧水等を雨水管渠上部に導水 ・費用 【事業費の内訳（件、国などからの補助金の有無など）】 総工費：約3億円 <ul style="list-style-type: none"> ・A工区：約1億円 河川事業として市単独予算で実施 ・B・C工区：約2億円「国庫補助事業 都市水環境整備下水道事業費（1/3補助）」 ・効果 クロメダカやカワニナといった清流にしか生息しない水生生物や、オニヤンマやギンヤンマなど、地域住民が30年ぶり、40年ぶりに見たというようなトンボが確認されています。他にもセリヤクレソソ、セキショウといった植物が見られるようになりました。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">NPO・住民との協働</p>	<p style="text-align: center;">協働の背景</p> <p>【協働することになった背景、きっかけ、経緯】 近隣の横浜市立今井小学校の生徒が、飼育していた黒メダカ20匹が、数千匹に増え、これがかつて流れていた今井川に戻して自然を取り戻したいと考え、活動を始めました。小学校の136名の生徒が水路の整備を望み、地域での署名活動を始め、行政（市）がこれを受けて検討を開始しました。行政が、地域を巻き込んだ形で、改修・整備のためのワークショップを開始し、協働による計画策定に着手しました。</p> <p>【協働の内容】 行政の計画作りのワークショップ（3回実施）に、地元町会、小学校などが参加し、具体的な整備イメージやメニューづくりについて検討し、提案等を行った。 開通式典の運営に地元小学生が参画。</p> <p style="text-align: center;">役割分担</p> <p>【関与した関係者（団体）】 横浜市立今井小学校5年生（当時）児童、教員 神奈川県立商工高校 今井町自治会 市沢仏向の谷戸に親しむ会（近隣で活動する市民団体） 横浜市（下水道局、環境保全局、保土ヶ谷土木事務所）</p> <p>【活動の役割分担】 横浜市：計画策定、ワークショップの運営、整備 小学校、高校、町会、市民団体等：計画検討、提案、管理活動 今井川いこいの水辺愛護会：管理活動</p> <p>【それぞれの主体の活動費用の内容（補助金、助成金の有無、予算規模など）】 横浜市の水辺愛護会制度による助成金</p> <p style="text-align: center;">成功要因</p> <p>地元の小学生が、学習活動の一環として、繁殖したメダカを川に戻したいという強い思いで活動した。また、その思いを形にしていける指導を行った担任の先生の存在が大きい。 地域からの要望をしっかり受け止め、地域のニーズに沿った形での計画策定を協働により進めたこと。</p> <p style="text-align: center;">今後の課題</p> <p>住民や地域の要望を活かすため、施行材料に、土系の弾性舗装材など自然のものを多用したり植栽帯の配置など工夫しました。 維持管理については、地元住民により「今井川いこいの水辺愛護会」を結成。日常的な維持・管理作業を市より委託しています。水辺への愛護精神を育てるため市が年9万円を助成しています。 大規模な作業については、市が直接実施しています。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">その他関連情報</p>	<p>【事業概要】 実施場所：横浜市保土ヶ谷区今井町740番地先 ～ 925番地先 （神奈川県立商工高校裏手から環状2号高架下まで）</p> <p>事業期間 ・平成11年5月～12年7月：地域参加による計画策定の「今井川せせらぎ緑道ワークショップ」を実施（具体的な整備イメージ、メニュー作り） ・平成13年9月～15年8月：区間を3分割し、順次整備を実施</p>

	<p>【事業名（行政内部の位置づけなど）】 今井川せせらぎ緑道整備事業</p> <p>「せせらぎ緑道事業」：市街地において下水道の整備に伴い水辺が失われた場所で、自然の湧水等を雨水管渠上部に導水し、水と緑を活かした水辺区間を整備する事業。19箇所を整備しました。</p> <p>公園の名称も地域で決めた。8つほどの候補を挙げ、本川の名を残した名称「今井川いこいの水辺」を選択しました。</p>
資料 提供 先	<p>【ヒアリング先】 横浜市保土ヶ谷土木事務所</p> <p>【参考資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今井川いこいの水辺整備に到る横浜市立今井小学校の取り組み等を紹介する新聞記事他 ・今井川せせらぎ緑道ワークショップ（3回）参加者名簿 ・今井川いこいの水辺愛護会資料（イベント情報） ・整備前後の記録写真
参考 エ ド	<p>横浜市保土ヶ谷土木事務所 HP http://www.city.yokohama.jp/me/hodogaya/kouhou/0511/tokusyuu.html</p>



B工区整備前



B工区整備後



C 工区整備前



C 工区整備後



A 工区（水路内に「この場所は小川の水をためています。川の中の石や土を動かさないでください」とある）



水路沿いの掲示板（いこいの水辺について掲載された新聞記事や生きもの情報など、せせらぎ水路を見守る地域住民が利用）



B 工区案内板（下の方は掲示板として利用）



B 工区



C 工区



C 工区